

## 受彰者のことば

式典の結びに、善導寺校区の太田寿様が受彰者を代表し謝辞を述べられました。

「福祉活動への取組みが、私たちの人生を豊かにし、生き甲斐を与えてくれました。このことに感謝し、今後地域社会発展のために尽くしたい。」と太田様が謝辞を読み上げると、これに対し場内から惜しみない拍手が送られました。



## 会長のあいさつ

これからの地域活動に活かす

久留米市地区社会福祉協議会  
連合会 会長 岡 リツ子



久留米市地区社会福祉協議会連合会50周年の節目の

年に際し、橘原市長をはじめ多くのご来賓の皆様、および地区社協をはじめとする地域福祉の実践者の方々が、一堂に集いお祝いする機会を設けることができましたことに感謝申し上げます。

また、地域での福祉活動に率先して取り組んでいただいた82人もの皆様へ顕彰できましたことに、連合会としても感謝いたします。

講演では、惣万さんの20年以上にも及ぶ地域での共生の取組みについて、つづ

さにご講演いただき、この久留米の地においても、誰もが安心して暮らすことのできる、「共生の場づくり」を推進することが重要であるとの思いを改めて強く感じております。地域住民が主役となった地域福祉の推進に今後も取り組んでまいりますので、一人でも多くの皆様の地域福祉活動への参加をお願いいたします。



『このゆびとーまれ』は1993年に富山県内で初めて、民間のデイサービス事業所として開所しました。立上げたのは、私と当時、富山赤十字病院で看護師をしていた二人の同僚でした。治療が終わっても、一人暮らしが困難で自宅へ帰れない患者さんが多くいらっしゃいました。そんな人々を昼間見守り、在宅での生活を可能にするお手伝いをしたいと思ったのが、きっかけです。

開所した当初は、利用する人が集まりませんでした。最初の利用者は、障害児を



講演 共生型の魅力ある地域づくりについて  
— 富山型デイサービスの実践 — (抜粋)  
特定非営利活動法人 デイサービスこのゆびとーまれ  
理事長 惣万 佳代子氏

もつ母親で「3年間美容院に行っていないので、この子を預けて美容院に行きた

子ども、赤ちゃんなどさまざまな人が利用しています。ここでは、誰もがお世話さ

は、赤ちゃんがいることで心が穏やかになり、生き生きと赤ちゃんのお世話をさ

い。」とのことでした。

現在では、認知症のすすんだお年寄り、ダウン症の

れるだけでなく、時にはお世話をする側でもあります。ある認知症のおばあちゃん

れます。

またいろいろな問題がおきても、地域の住民と一緒に考え、悩んだり、笑ったりして歩んできました。そして2006年には富山型デイサービスとよばれるような制度になりました。

「明日の100人より、今日の一人を助ける」赤字の想いを胸に、これからも「誰も排除しない」という『このゆびとーまれ』の理念で頑張っていけます。